

景気景況調査報告

(第24回)

令和3年	10～12月期	実績
令和4年	1～3月期	見通し

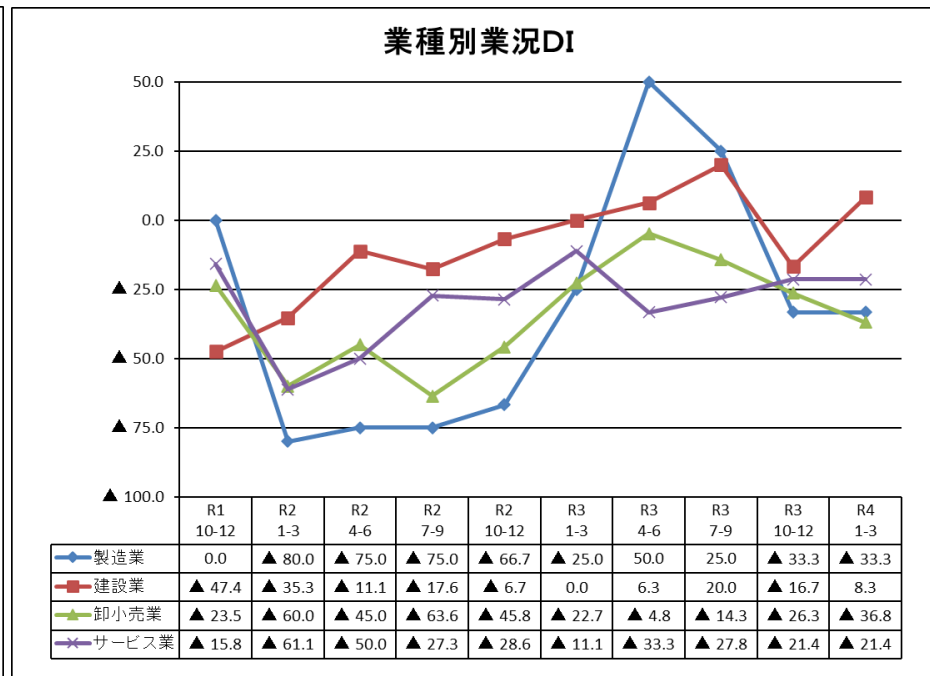
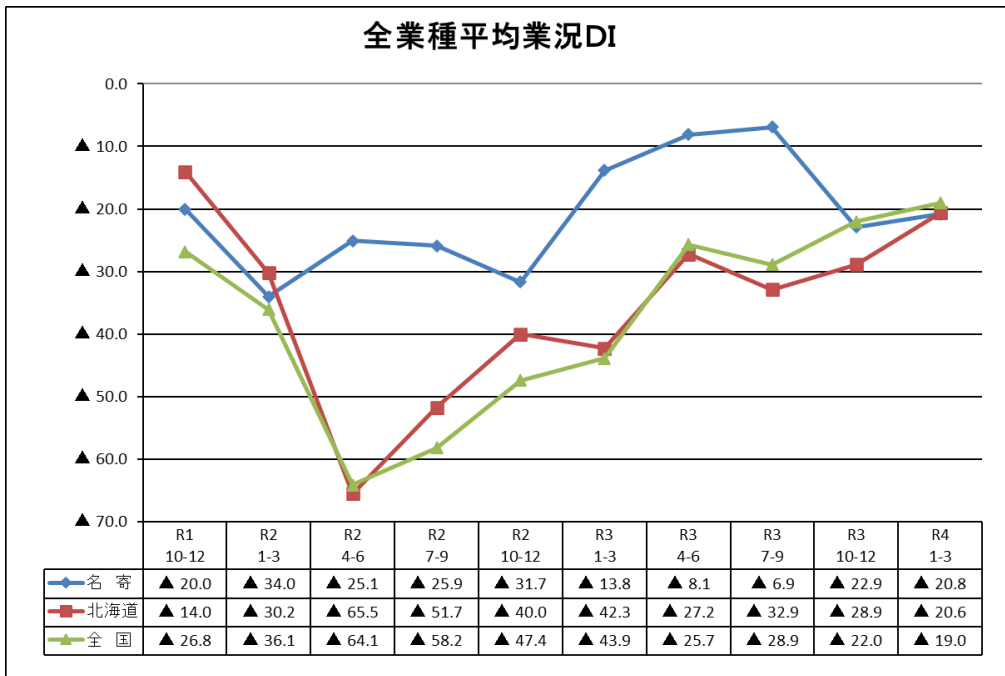
令和4年1月

名寄商工会議所

I 調査要領

- ①調査対象期間 令和3年10～12月期の実績及び令和4年1～3月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、従業員、業況、資金繰りの6項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（FAXで協力願い） 122社

II 調査結果

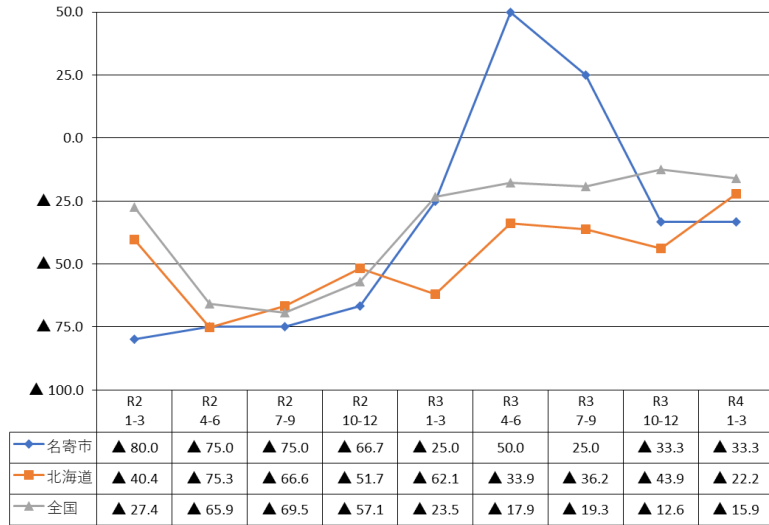


※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

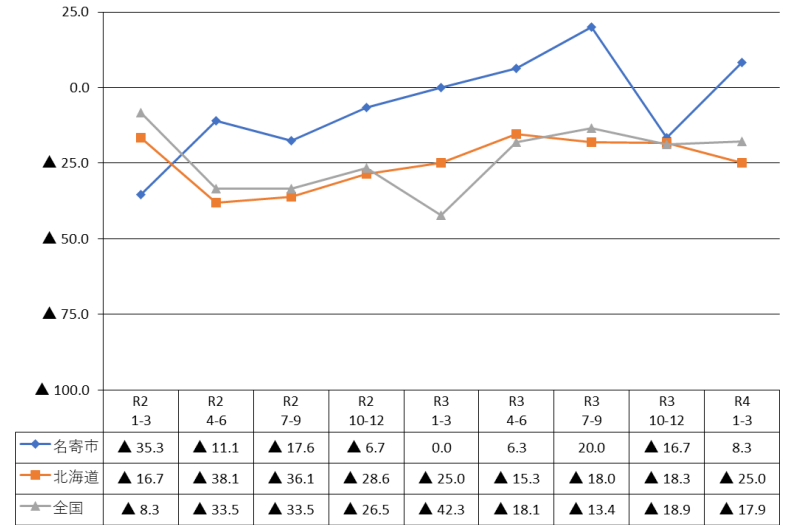
- ・今期、全業種平均で▲22.9ポイントと前回調査と比べ16.0ポイント悪化となっている。
- ・北海道（道商連調査）の景気と比較すると、今期6.0ポイント良いが、見通しでは道・市共にマイナス幅が縮小する見込みとなっている。
- ・全国（日商調査）の景気と比較すると、今期0.9ポイント悪いが、見通しでは国・市共にマイナス幅が縮小する見込みとなっている。
- ・見通しでは今期と比べ2.1ポイント好転となっており、依然として先行き不透明という回答が多くみられる。
- ・業種別では、前期に比べサービス業以外減少となっている。見通しでは建設業が好転となっている。

業種別業況DI

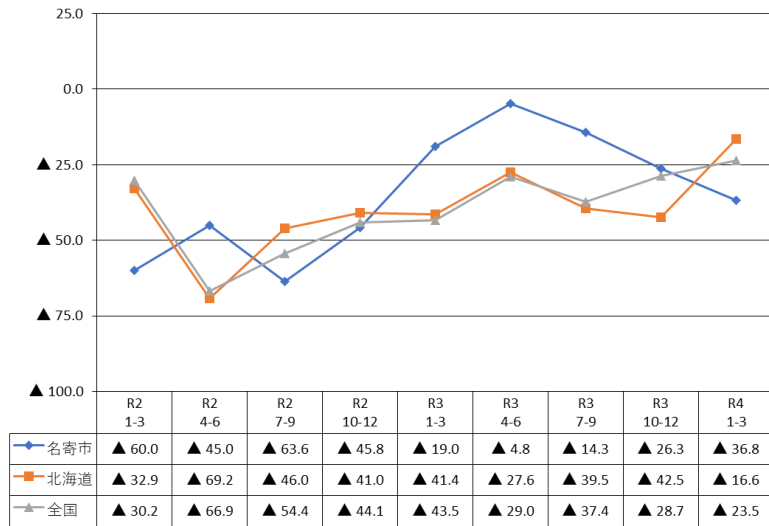
製造業 業況DI



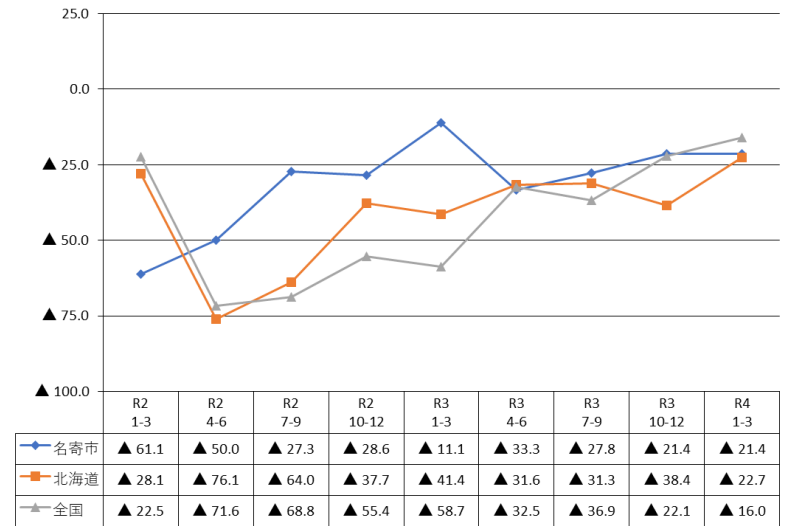
建設業 業況DI



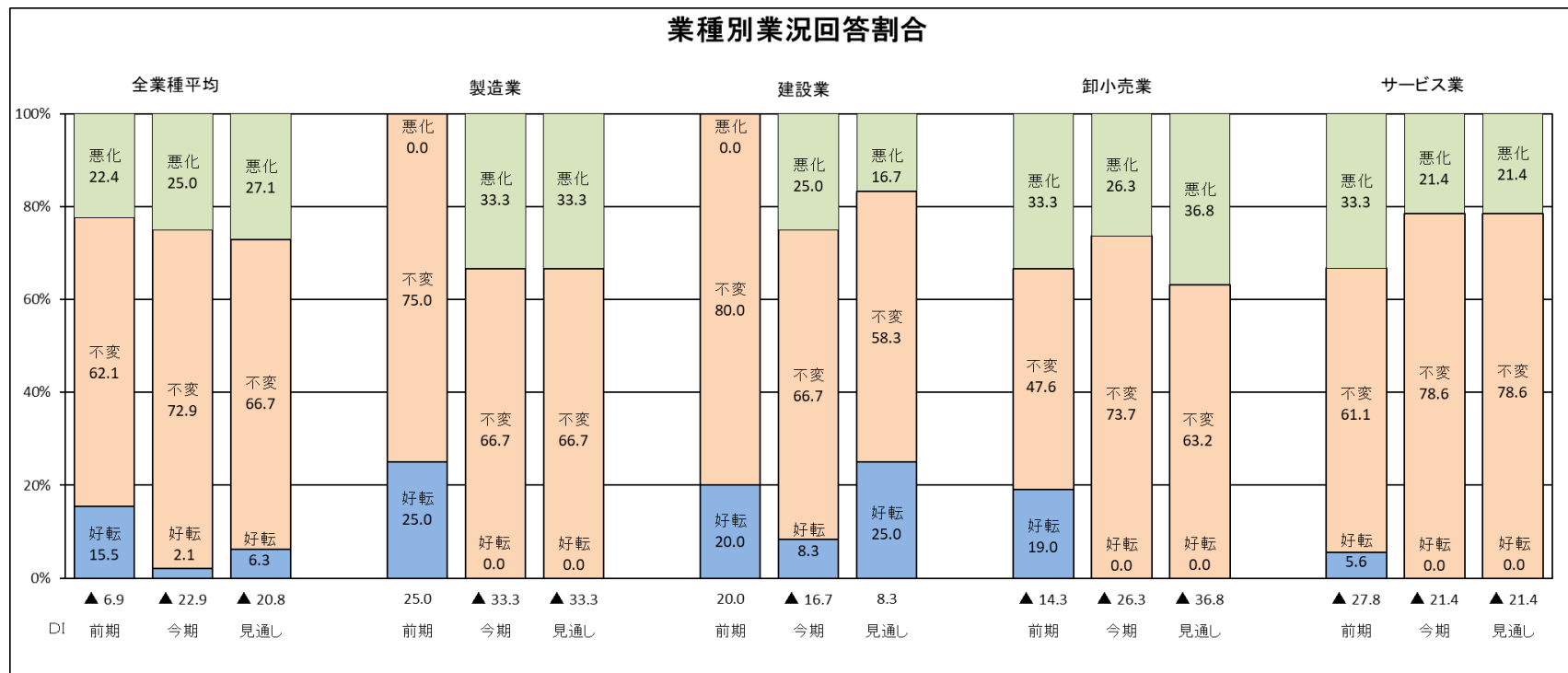
卸小売業 業況DI



サービス業 業況DI



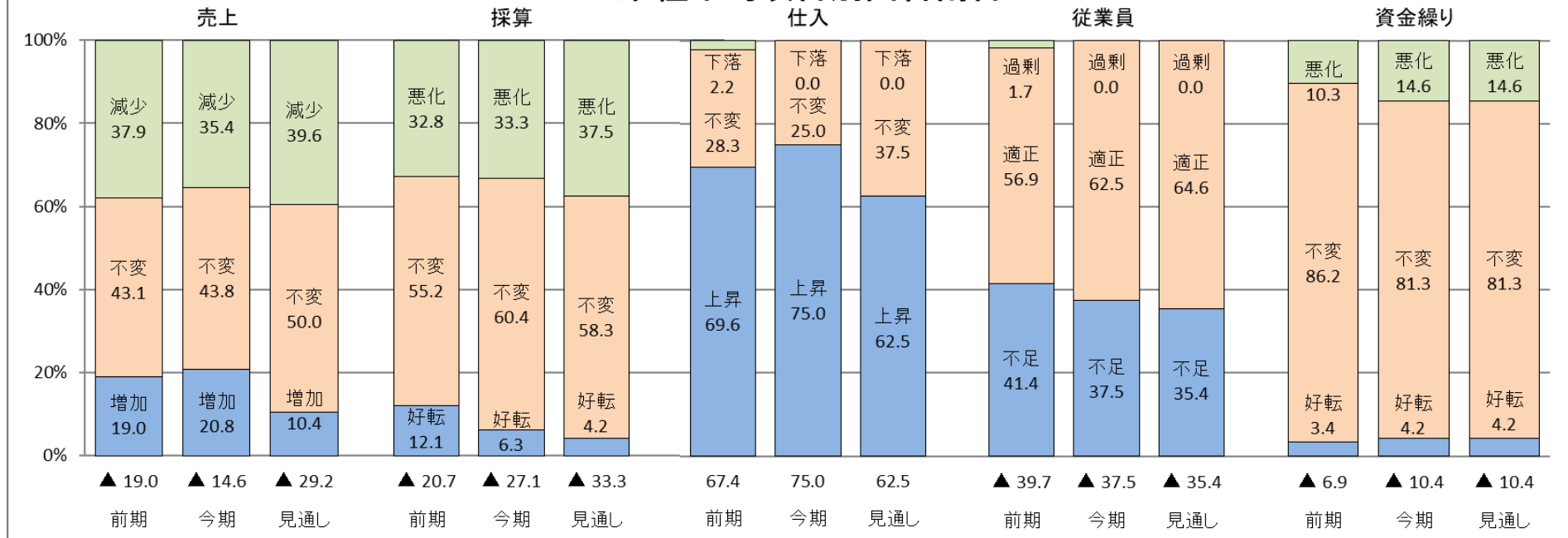
業種別業況回答割合



※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- 製造業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が33.3%増加しており、「好転」の回答はない。
見通しでは「悪化」「好転」とも今期と変わらない。
- 建設業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が25%増加しており、「好転」が11.7%減少している。
見通しでは「悪化」が8.3%減少し、「好転」は16.7%増加となっている。
- 卸小売業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が7.0%減少しており、「好転」の回答はない。
見通しでは「悪化」が10.5%増加し、「好転」の回答は今期と共はない。
悪化の要因として、原油価格・物価等の高騰や王子マテリア撤退等がみられる。
- サービス業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が11.9%減少しており、「好転」の回答はない。
見通しでは「悪化」「好転」共に今期と変わらない。
全体的に人口減少・仕入運賃増加・お客様の減少・若年層不足・仕入単価増加・新型コロナ株に伴う外出抑制
コロナによる人流制限・コロナ対策予算の増加、見通し不透明等々の要因が挙げられている。

全業種平均項目別回答割合



売上DI 今期▲14.6ポイントと前期より4.4ポイント増加となっている。見通しでは14.6ポイント減少となっている。
 [減少の要因] ・緊急事態宣言の発令 ・人口減少 ・物流の遅延 ・事業の減少

採算DI 今期▲27.1ポイントと前期より6.4ポイント減少となっている。見通しではさらに6.2ポイント減少となっている。
 [悪化の要因] ・利益率の悪化 ・固定費の増加 ・メーカーの大幅値上げ ・原油価格の増加

仕入DI 今期75.0ポイントと前期より7.6ポイント増加。見通しでは12.5ポイント減少となっている。
 [上昇の要因] ・仕入運賃の増加 ・原材料の上昇 ・深刻な半導体不足 ・人件費上昇

従業員DI 今期▲37.5ポイントと前期より2.2ポイント増加となっている。見通しではさらに2.1ポイント増加となっている。
 [不足の要因] ・高齢化 ・人口減少 ・若年層の減少 ・求人難 ・退職者増 ・仕事量の減少

資金繰りDI 今期▲10.4ポイントと前期より3.5ポイント減少となっている。見通しでは横ばいとなっている。
 [悪化の原因] ・売上減少に伴う減少 ・品不足 ・新型コロナウイルスの影響 ・先行不透明